復興応援団だより

2013年10月号
発行元：
一般社団法人
復興応援団
広報チーム
0226-25-9897

高校生スタディツアー

今回、2回目となる高校生ツアー。愛知県の高校生41人が、2日間にわたって南三陸町の復興の状況を学びにきました。

まず高校生達は、1日目の午前中に戸倉中学校、防災対策庁舎などを巡り、津波の被害がどれほど深刻なものであったかを知りました。午後には、復興グッズ「オクトパス君」を製造する入谷Ｙｅｓ工房を訪問し、復興に向けての様々な取り組みについて学びました。

夜には班ごとに分かれて、「どうやって今の南三陸の様子を地元に伝えるか」を議論しました。そこでは、ＦａｃｅｂｏｏｋなどのＳＮＳやＹｏｕＴｕｂｅなどの動画投稿サイトを利用するといった高校生らしい意見が出ました。一方で、「伝えた」先に南三陸の復興につながる何が生まれるのか？という問いかけに対しては、答えに詰まる光景が見られました。

前日とは違い、班のメンバー全員が意見を出し合い、真剣さも感じられました。秋の発表も素晴らしいものでした。「自分の高校の文化祭で東北のものを売る」翌2日目の午前中は、歌津の漁師・金比羅丸高橋直哉さんをお手伝いしました。秋のホタテ養殖開始に備えて、養殖ロープの撚りを戻す作業と、漁船に乗せてもらっての漁場見学を行いました。午後には班ごとに分かれて「自分たちにできることは何か」を議論しました。漁業体験を経たせいか、初日よりも議論が活発になりました。「学園祭で南三陸の商品を売る」「震災の教訓を東海地震の防災に生かす」など、具体的な意見が多く出ました。

愛知に帰って、高校生がどういうアクションを起こすかとても楽しみです。復興応援団は今後もこうした復興のすそ野を広げる活動にも取り組んでいきます。

発見！東北グルメ　No.14　たいしゅう食堂

今回紹介するお店は、創業64年をむかえる「たいしゅう食堂」です。震災で店舗が大きな被害をうけたため一時休業していましたが、2011年の9月に場所を移して営業を再開しました。

おすすめは、復興を願う店主の思いから震災後新たに追加されたメニュー「復興黒あんかけ焼きそば」と「スタミナ復興ラーメン」です。黒醤油で味付けされたあんに、野菜にえび、卵といったトッピング盛りだくさんの「復興黒あんかけ焼きそば」。こだわりのチャーシューが特徴の「スタミナ復興ラーメン」。両メニューともボリューム満点で大満足の味です。

住所：本吉郡南三陸町歌津字峰畑54
電話番号：0226-36-2015
営業時間：11:00～20:00
【定休日】不定休

「たいしゅう食堂」では、その他にも、「日替わり定食」などの各種定食も楽しむことができます。皆さんもぜひ一度足を運んでみてください。

復興応援団とは

私たち一般社団法人復興応援団」は、地元の方が主役となった東北地域の復興のために活動しています。活動目標は①東北地域の各市町村・集落のファンを増やすこと②地元の人とファンが一体となって復興とその後のまちづくりに取り組むしくみをつくること③地元の人自身（特に若い世代）が復興とまちづくりに立ち上がる大きなうねりをおこすこと。

南三陸町では「ボランティア派遣」事業を実施しています。全国からのボランティア参加者に、地域再生に取り組む地元の方のお手伝いをし、地域の魅力に触れてもらうことで、「地域のファン」を生み出し、長期的な復興を支える人と人のつながりをつくります。

多賀城市での「支え合いネットワークづくり」事業では、今後の復興公営住宅の生活やまちづくりにもつながるような、住民の皆さんが中心になった自治コミュニティの形成を目指し、仮設住宅や見なし仮設の内外でゆるやかなネットワークづくりをお手伝いしていきます。

テントサーカス

8月15日に山王仮設住宅の近くの広場でテントサーカスが行われ、復興応援団の学生スタッフも設営や後片付けのお手伝いをしました。

仮設住宅にお住まいの方だけでなく、近所の家族連れやお年寄りなど多くの方がテントサーカスを観に来ていました。日差しが強く暑い日でしたが、冷たい飲み物や綿あめが振るまわれ、みなさん喜んでいました。ジャグリングや玉乗りの他、お客さんも参加するコーナーもあり、大盛況でした。テントサーカスが終わった後「家に入りたくない」と泣く子がいたほどでした。クラウンは、山王にたくさんの笑顔を届けてくれました。ぜひ来年もまた来てほしいですね。

おらほのヒーロー

file13 稲井龍弥さん＝「海友支援隊」

浜の養殖ホヤやホタテは震災で全て流され、育成に必要な養殖棚や漁具もほとんどを失いました。「一般社団法人海友支援隊」が養殖業再生を後押ししています。代表理事の稲井さんはこう説明します。「1口1万円の支援金を全国から募り、養殖業再開に必要な資材を買いそろえます。復興した暁にはお返しして復活したホヤとホタテをおけました。変わり果てたふるさとには被災した友人が数多くいました。高校時代の友人の阿部さんもその一人。稲井さんは内陸部の登米市在住。

震災直後、出身の石巻市湊地区の状況を気にかけ、連日、食糧と物資を運び続けました。寄磯浜に入ったのは4月。浜には、経営する水産加工場を津波で流された同級生がいました。水産加工場を再建するには、養殖業や漁場全体を再生する必要があります。窮状を目の当たりにした稲井さんと阿部さんの心に「なんとか同級生を助けたい」という思いがこみ上げました。

ホヤの育成には3、4年がかかり、長期にわたる支援が必要です。腹を決めた稲井さんは勤め先に辞表を出し、7月にメンバー4人で「海友支援隊」を立ち上げました。

ホヤ養殖が再スタートを切ったのは2012年1月。鮫浦湾では毎年漁師たちが天然ホヤが放卵した種を海中で採取します。新調した養殖棚に牡蠣の貝殻を吊るすと、震災前と同じようにたくさんの種が付着しました。

「私たちにできるのは、養殖業がスタートラインに立つまでを応援すること。そこから先は漁師さん1人1人の市場での競争です。私達は身の丈に合った支援をして、協力頂いた方へのお返しをするだけです」そう稲井さんは言います。海の生命力は再び息吹を取り戻したのです。

復興応援塾

8月7日から16日にかけて、南三陸「ホテル観洋」にインターンシップに来ている創価大学生のために復興応援塾が開催されました。復興応援塾とは、被災地の担い手を語り部としてお招きし、講演していただくものです。8月9日の応援塾には「たみこの海パック」事業を立ち上げた阿部民子さんにご登壇いただきました。

たみこの海にパックとは、南三陸の様々な海鮮物を詰め合わせで、ギフト商品としてインターネット販売や直接販売をしています。民子さんは大学生たちに震災当時の様子や起業したきっかけ、今の経営で苦労していることなどを話してくださいました。

質疑応答の時間で、ある女子大学生が大学祭でたみこの海パックを売りたいと言うとまわりの学生たちも賛同し、民子さんは嬉しそうにそれを聞いていました。

民子さんは海パックのさらなる改良を試行錯誤しています。震災の苦い思い出を胸にとどめつつ、しっかり前に向かう民子さんの話は、大学生の胸に響いたに違いありません。

防災研修ツアー

8月10日、11日にCommunity Crossing Japanと復興応援団が連携して共助の防災研修プログラムを行いました。

この防災研修ツアーの目的は、東北での震災の教訓を今後起きるであろう首都圏での震災に活かすことです。多くの人が集まる商業施設等の関係者が対象であるため、震災当時、避難所等の運営にあたった方たちに話を伺いました。

1日目は、ホテル観洋のスタッフさんから、発災当日の模様と宿泊客や避難してきた地元の方々への対応について伺いました。2日目の午前中、発災当夜臨時に避難所となった老人ホームで、避難してきた地域住民の誘導と避難所の体制づくりにあたったリーダーの方にお話を伺いました。午後は、長期にわたり避難所運営に携わった看護師の方にお話を伺いました。避難所では衛生環境が悪くなるので、医療・衛生面から支えた方の話はとても貴重なものでした。

より多くの人が震災が起きたときの対策について理解を深め、行動できるようになることを目標に今後も防災研修ツアーを続けていきます。

今後の予定

【南三陸】
○農業で被災者雇用応援プロジェクト#24
9月28日(土)-29日(日)

○海と漁業を知る&ホタテオーナー制度開発プロジェクト#5
10月19日(土)-20日(日)

【多賀城】
○ホッとサロン
地元の福祉関係の皆さんが集会所でお茶飲み会を開きます。
時間は14時から16時です。
9月24日：城南　10月4日：高橋公園
10月8日：多賀城中　10月15日：勤労

○団だより11月号配布
10月19日（土）又は20日（日）

海友支援隊に支援金を送りたい方へ！

支援金は1口10,000円（税込・送料込）です。
申込み時に「一口支援基金会員証書」と「特製縁起石絆グッズ」が郵送されます。
※申し込み方法、プロジェクト詳細はホームページで

【海友支援隊HP】：http://www.kinka-hoya.com/
電話番号：0225-25-4572
メール：info@kinka-hoya.com